

診断士にいがた SOUP LETTER

発行／一般社団法人新潟県中小企業診断士協会

第 32 号／令和 6 年 3 月

URL <https://www.n-smeca.jp/>

TEL 025-378-4021

FAX 025-378-4022

一般社団法人新潟県中小企業診断士協会

会長 土田正憲



「コンサルティング」と「シンクタンク」の2つの役割

平素は当協会の活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

昨年、当協会青年部会・有志メンバーによる調査・研究事業報告書「中小企業のSDGs取り組み支援マニュアルの研究」が、連合会本部の（一社）中小企業診断協会のホームページに公開されました。

本調査・研究事業は、中小企業のSDGsへの取り組み方や中小企業診断士としての支援の在り方について調査・研究を深めて支援マニュアルを作成し、新潟県内および全国の中小企業診断士のSDGs支援に役立てることを目的としています。当協会が所属する新潟県中小企業青年中央会において、新潟県味噌醤油工業協同組合青年部会様と連携して実施した「味噌・醤油業界でのSDGsの取り組みに関する研究事業」に端を発しており、同事業を通じて、中小企業診断士による中小企業のSDGs取り組み支援推進の必要性を認識したことが実施の契機となっています。「中小企業のSDGs取り組み支援マニュアルの研究」で検索し

ていただくと報告書をご覧ください。中小企業支援に携わる方々にご活用いただくことを願っております。私も活用しております。

さて、中小企業診断士は、経営コンサルタント唯一の国家資格であり、中小企業の経営課題に対応するための診断・助言を行う専門家です。「企業の成長戦略のアドバイス」を主な業務としているわけですが、その役割は「コンサルティング」だけでなく、前述した調査・研究など「シンクタンク」の役割も担っています。（一社）中小企業診断協会では、多様化するコンサルティングニーズに対応するために経営診断技法等に関する調査研究を実施しています。また、中小企業診断士の資質向上と知識の共有化を図るため、毎年11月に「中小企業経営診断シンポジウム」を開催し、会員中小企業診断士による研究論文の発表を行っています。

当協会においても、今後も調査・研究事業に積極的に取り組み、「コンサルティング」と「シンクタンク」の2つの役割から中小企業の振興に貢献してまいります。

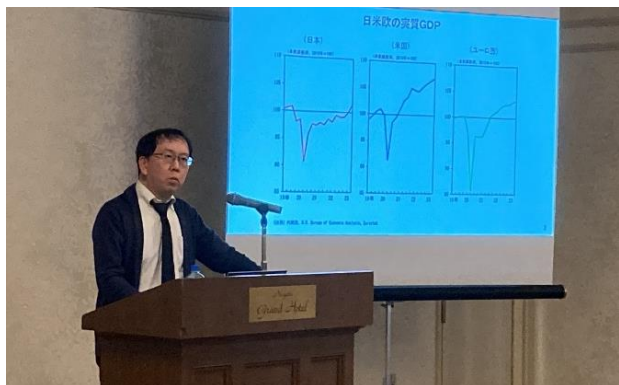
新型コロナウイルス感染症が5類に移行してもうすぐ1年になります。コロナ禍後の経済活動が正常化したことを受け、金融庁は令和6年春に金融機関向けの監督指針を改正し、「資金繰り」から「事業再生」に企業支援の軸足を移行するよう明記することになっています。このような状況下、我々中小企業診断士による経営支援への期待は高まっています。それと同時に支援者である私たちも変革が求められています。中小企業の健全な発展のために研鑽を積み、高度な経営手法や経営診断技法等について深く研究し、社会ニーズに対応していきます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

協会活動報告

令和6年新春講演会

総務委員会 岡田正博



第2部で講演する小林日本銀行支店長

去る2月3日(土)、新潟グランドホテルで「令和6年新春講演会・新年会」を開催いたしました。協会の各種イベントも少しずつ活気が戻ってきており、40名を超える参加者となりました。

今年の新春講演会は、2名の講師に講演いただきました。まず第1部として新潟経営大学 経営情報学部 准教授 中小企業診断士 島田達人様に「2024年からの新潟県のプロスポーツ」と題してプロスポーツ界の構造や特徴、課題についてご講演いただきました。新潟の3クラブ(サッカーのアルビレックス新潟、バスケットボールの新潟アルビレックスBB、野球のオイシックス新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ)に関する2024年以降の変化など、非常に興味深いものでした。また、島田先生がおっしゃっていたとおり「普段はスポーツを観戦することはあってもビジネスとして接する機会はほとんどない」ものであったため、新鮮な驚きの連続でした。

続いて第2部では例年「これがなければ1年が始まらない」とマニアックな人気を誇る(?)日本銀行支店長による講演でした。昨年に続いて支店長の小林俊様から「新潟経済の現状と展望」と題して、日本そして新潟県の経済情勢についてお話いただきました。欧米の動向と日本の動向の違い、全国的な動向と新潟県の動向の違いなど多角的な分析が勉強になりました。

ところで、実は昨年まったく同じことを思ったのですが、司会として講師を紹介する際、「ニホンギンコウ」と発音してしまうのですが、正式に決まっているわけではないものの「ニッポンギンコウ」の方が望ましいのですよね。お礼には「NIPPON GINKO」と書かれているし。今回、講師プロフィールを読み上げる際、最初に「ニホンギンコウ支店長の」と言ったあとでそんなことが頭をよぎり、続くフレーズでは「小林様はニッポンギンコウに入行後」などと一貫しない読み方をしてしまいました。

その後の「令和6年新年会」は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行してから初の新年会ということもあり大いに盛り上がったと思います。冒頭のあいさつで土田会長が「実はプロスポーツにはまったく興味がなかったが・・・」と話したときは会場が凍り付き島田先生の顔がひきつってしまいました(ウソです)。また、新年会では新たに入会された会員の方々から元気と笑いのある自己紹介もありました。



新年会の様子

来年の新春講演会・新年会は、令和7年1月25日(土)に、同じく新潟グランドホテルで開催の予定です。ぜひ今のうちに予定登録しておきましょう。

新潟県商工会連合会との情報交換会の開催

事業開発委員会 和栗聖

令和6年1月15日（月）、ほんぽーと新潟において、当協会と専門家派遣事業やセミナー事業等で事業連携を図っております新潟県商工会連合会様と情報交換会を実施いたしました。

情報交換会には新潟県商工会連合会様から経営指導員及び広域指導センター職員 20名が参加され、当協会からは12名の会員が参加いたしました。

情報交換会では、はじめに新潟県商工会連合会広域指導センターの柳所長から開会のご挨拶をいただき、その後、当協会の会員5名が自身の得意分野や支援事例を報告し、参加者が熱心に耳を傾けていました。



開会の挨拶を行う柳氏

【登壇者氏名（所属）】

阿部哲也会員（オフィス BEA コンサルティング株式会社）

楠正久会員（くすのき経営事務所）

小林和之会員（にいがた補助金支援センター）

本間大輔会員（本間ビジネスパートナー）

中村公哉会員（中小企業診断士中村公哉事務所）

5名登壇後の質疑応答では、参加経営指導員から実際の商工会会員企業様の事例をもとにした質問があり、登壇者から改善に向けた具体的なアドバイスをさせていただくなど、活発な意見交換がなされました。



会員による発表風景

最後に、土田正憲会長より商工会会員企業様の経営支援に向けて更なる関係強化を図ることをお願いし閉会となりました。



閉会の挨拶行う土田会長

また、情報交換会終了後は会場を移し、懇親会を開催しました。アルコールの力もあってか情報交換会では語りきれなかった会員企業様の支援に向けた熱い議論が交わされました。無事に情報交換会が終了したことへの解放感から過剰なるアルコール摂取の結果、懇親会の写真撮影を失念してしまい熱気渦巻く懇親会をお伝え出来ず申し訳ありません。

今回は下越地域の経営指導員を中心にご参加いただきましたが、次年度は上中越地域の経営指導員が参加しやすい会場で開催させていただく予定です。その際は会員メーリングリストにて登壇者の募集をおこないますので多くの会員から応募をお待ちしております。

「11の専門家による無料相談会」参加報告

副会長 上村修

昨年12月1日、県内の様々な士業の専門家による合同相談会「11の専門家による無料相談会」が開催され、当協会も参加いたしました。

朱鷺メッセの会場には9つのブースが設けられ、相談者の相談内容により、最適な士業の専門家が相談対応を行いました。相談内容が複数の専門分野にまたがる場合は、複数の士業の専門家が同席して、ワンストップでの相談対応を実施しました。

当日は、合計で61名の相談者が来場され、各ブースで各士業からのアドバイスに、相談者が熱心に耳を傾けていました。

当協会からは、2名の中小企業診断士（会員）が相談員として参加し、6件の相談に対応しました。昨年度までは、主に個人の相談が大半を占めていましたが、今年度は経営相談の数が増加しており、中小企業診断士としての役割をこれまで以上に果たすことができました。

来年度も開催されると思われますので、皆様からの積極的なご参加をお願いいたします。

中小企業診断士を目指す人の情報交換サロン

研修委員会 小山直久

昨年度と同様、今年度におきましても2回ほど開催いたしました。

中小企業診断士を目指す受験生の方々と現役診断士を交えたサロン会及び懇親会は、熱量あふれる本音の対話が広がり、まさに「座談会」にふさわしい会となりました。

直近の第4回スピーカーの土田克則会員は、ご自身の会社経営経験の視点で「試験は人生の通過点にしすぎません。ご自身のキャリアと診断士試験の学習を掛け合わせて経営者とともに歩む診断士になってください」の言葉には、受験生の方々も固唾をのんで耳を傾けていました。

昨今、中小企業診断士の活躍の場が広がってきています。「経営支援を通じて中小企業の持続的な成長」をコンサルティングする診断士の輪が新潟に広がることを願ってやみません。

<第3回> 令和5年5月2日（火）

- ・スピーカー 小山直久
- ・参加人数 18名
- ・テーマ内容 試験秘話、診断士の生感

<第4回> 令和6年1月27日（土）

- ・スピーカー 土田克則先生
- ・参加人数 18名
- ・テーマ内容 受験のコツ、学習方法、経営談

事業開発委員会

委員長 和栗 聖

平素は、事業開発委員会の活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。令和5年度の事業開発委員会は、前年度から引き続き金融機関および中小企業支援期間との連携強化を主な方針として、連携機関との協会会員専門家派遣運営管理を実施してまいりました。

また、本誌掲載のとおり商工会連合会様と情報交換会を実施しました。次年度も開催予定ですので、多くの会員からのご参加をお待ちしております。

研修委員会

委員長 小山直久

平素は、研修委員会の活動に、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

令和5年度の活動についてご報告いたします。

1. 理論政策更新研修の実施運営

第1回(8月26日)の研修を担当いたしました。中小企業のデジタル化支援をテーマに 大幸経営有限会社 代表・中小企業診断士の大石幸紀氏に支援事例を交えて現場解決力を学びました。

2. 中小企業診断士を目指す人の情報交換 サロンの実施

2回の実施で36名が参加し、盛んな情報交換が行われ、交流の輪が広がりました。

3. コンプライアンス研修の受講促進

公正な経営支援でクライアントとの信頼関係構築とプレゼンスアップが見込まれます。

本年度も会員の皆様のご協力及びご参加を賜り誠にありがとうございました。

総務委員会

委員長 岡田正博

総務委員会は、まあ毎年同じことを言っているような気もしますが特筆すべきことはなかったです。上の1文だけ書いてすでに「あとは何を言おうか」という状態なので、昨年の自分の原稿を探したのですが見つからず、大いなる試練に直面しています。大きなイベントとしては定時社員総会と新春講演会しかないので通期でミーティングを重ねるようなこともなく、ビデオ通話やチャットアプリでの相談を進めました。そういうやりとりがすっかり定着して、数年前とは隔世の感がある、実はコロナ禍こそAIに続く情報革命だったのでは、とかテキトーなことを考えています。

そうそう、定時社員総会も新春講演会も、コロナ禍で参加人数が振るわない時期を脱してきており、少しほっとしています。令和6年度は再び大人数が集まる会合にしたいと思います。

広報委員会

委員長 樋口圭治

何とか今年度が終わろうとしています。今年度広報委員会は、診断士の日のイベントの企画・運営、協会会報誌「スープレター」の発行、ホームページの管理を中心に行ってきました。

やはり一番重かったのは、11月14日に行われた診断士の日のイベントの企画・運営だったと思います。基調講演には、比較的早い段階で(株)鈴木コーヒーの佐藤会長に快くお引き受けいただき、また分科会講師も早い段階で応募いただいたので、余裕を持って進めることができました。

スープレターの発行やホームページの管理についても、無事進めることができましたと考えています。

それぞれ課題も残りましたが、何とか無事進めることができました。広報委員会のスタッフが一人丸となって取り組み、また理事を始め会員の皆様のご協力があったのことでと思います。この場を借りてお礼申し上げます。

企業再生支援研究会 活動報告

代表 上村修



今年度は、計2回研究会を開催しました。

第1回目は、昨年7月29日に山子顕会員から「事業再生を中心とした福島県協会における活動について」とのテーマで、福島県協会の活動状況や、山子会員の事業再生への取り組みについて事例を交えて、ご講演頂きました（上部写真）。

第2回目は、本年2月23日に埼玉県中小企業診断協会会長の高澤彰先生（中小企業診断士）を外務講師として招き、「今、求められる中小企業診断士とは」とのテーマで、中小企業施策の動向や、高澤先生の豊富な支援事例等についてご講演頂きました（下部写真）。

第1回、第2回とも多くの会員の方からご参加頂き、活発な意見交換が行われました。また、研究会後の懇親会も大いに盛り上がり、会員同士の交流促進を図ることができました。

来年度も、実務に直結した研究会を企画運営してまいりますので、より多くの皆様からの積極的なご参加をお待ちしております。

事業承継・中小M&A研究会

代表 土田正憲

当研究会では今年度、2回の研究会、理論政策更新研修、事業承継支援専門家研修を開催しました。以下は事業承継支援専門家研修についてです。

M&AやPMIも学べる！
中小企業を成長に導く事業承継の支援スキルを身につける！

『事業承継支援専門家研修』受講者募集

中小企業の事業承継の重要性が高まるなか、中小企業診断士にとってその支援スキルは必須のものとなっています。
 そこで事業承継・中小M&A研究会では、新潟県中小企業診断士協会会員の事業承継支援スキルの向上、協会および協会会員、支援機関との連携強化を図るとともに協会会員同士の交流を促進し、中小企業の振興に寄与することを目的として「事業承継支援専門家研修」を開催します。
 「事業承継の支援スキルを学びたい」「事業承継を支援していきたい」「事業承継支援について学び直したい」という方は奮ってご参加ください。一緒に学びましょう！

○研修の特長

- ✦ 中小規模のアドバイザーから直接、国が推進する事業承継支援に準拠した内容を学べます
- ✦ 事業承継支援の専門家として必要な知識と勘所を効率的に習得できます
- ✦ 中小規模のアドバイザーや事業承継支援に興味のある協会会員との交流ができ、情報交換の機会を得ることができます

開催日時	令和5年11月18日(土)～令和6年2月10日(土) 全5回 ※具体的な開催日は裏面のカリキュラムをご覧ください。 ※時間は13:00～16:00です。
開催場所	新潟市万代市民会館（新潟市中央区東万代町9番1号）
対象者	新潟県中小企業診断士協会の会員
募集定員	20名
受講料	① 事業承継・中小M&A研究会の会員は無料 ② 上記①以外は5,000円(受講申込みと同時に事業承継・中小M&A研究会に入会する場合は無料となります。年会費3,000円をお支払いいただきます) ※初回受講時に徴収します。
申込方法	裏面にあるURLまたはQRコードからお申込みください ※原則5回セットでのお申し込みとなります。ただし、ご都合によりやむを得ず参加できない回があっても差し支えありません。
申込締切日	令和5年11月1日(水)

主催 一般社団法人新潟県中小企業診断士協会 事業承継・中小M&A研究会
 協力 独立行政法人中小企業基盤整備機構 関東本部

本研修は中小企業基盤整備機構関東本部、新潟県事業承継・引継ぎ支援センターからご協力いただき開催しました。全5回のカリキュラムで、事業承継関連施策、中小企業診断士に期待される役割、親族内承継・従業員承継、事業承継計画の作成、知的資産の承継と後継者育成、M&AとPMI、相談対応のロールプレイングなど事業承継支援に必要な知識とノウハウを学び実践につなぐ内容でした。受講者は22名。今後は当協会と支援機関等が連携して実施する専門家派遣などの場で学んだことを活かしていくことが期待されます。

事業承継は中小企業において必ず訪れる重要な経営課題です。経営課題解決の専門家である中小企業診断士として、事業承継支援から中小企業の振興に貢献できるよう引き続き研究会活動に取り組んでまいります。

実務従事ポイント研究会

代表 田邊直樹

実務従事ポイント研究会の田邊直樹と申します。日頃から当研究会の活動にご賛同いただき、心より感謝申し上げます。

今年度から、平野康晴先生より代表を引き継ぎ、当研究会の代表となりました。よろしく願いたします。

当研究会は、実務従事ポイントの獲得方法を研究すると同時に、研究会会員が実務従事ポイントを獲得することを目的としています。主な活動は、会員及び指導員によるグループコンサルティングを通じて、更新ポイントの獲得や実践的なコンサルティング手法を学ぶ機会を提供しています。

本年度は、新潟市内の美容室を対象に、4名の会員が診断報告書の作成に取り組んでおります。事業者へのヒアリングでは、課題や問題点を丁寧に抽出し、事業者の立場に立った支援を行っている印象を受けました。また、メンバー間の打ち合わせでは、それぞれの専門知識を生かしながら、意見を交わし報告書作成に取り組んでいます。加えて、指導員からは、報告書の全体構成、商圈分析、財務分析に関する具体的なアドバイスを受け実践的な手法を学ぶ良い機会となっています。

来年度以降、研究会の主目的である実務従事ポイントの獲得方法に関する研究とあるように、新たな活動というのも会員の皆様からアイデア募りたいと考えています。

まだ加入されていない方には、この機会にぜひご参加をご検討いただきたく存じます。また、診断対象となる企業の情報も引き続き募集しております。ご支援、ご参加を心よりお待ちしております。

なお、本誌発行時点では、以下のメンバーで活動しています。(五十音順、敬称略)

阿部哲也、市川明弘、鎌田晃博、銀山敏行、工藤泰暢、小山直久、齋田陽子、笹川智弘、田邊直樹、田村博康、土田克則、土田正憲、中村泰規、長谷川伸一、平野康晴、松原大、山崎寛和

青年部会

会長 長谷川貴一

青年部会の長谷川です。本年度も部員相互の交流や情報交換を目的とした会合や打ち合わせを行いました。また、青年中央会や北関東信越ブロック内協会等、外部団体との連携事業も企画段階から参画して、年間を通じて実施しました。

本年度はコロナの状況も変わった中で、意図的に交流の回数も増やそうと考えていたこともあり、懇親会は6度も開催することができました。新入会員の方も毎回お声がけしたので、様々な会員と交流ができた一年間になったのではないかと思います。また、近年継続している多団体との連携事業においては、本年度も実施しました。新潟市管工事業協同組合青年部とのSDGs取組推進事業を実施しました。既に新潟県味噌醤油工業協同組合青年部とも同様の事業を実施していたため、より進んだ内容で事業ができないかとチャレンジしながら実施した一年でした。より経営課題に繋がる取り組みを提案できるよう企業へのヒアリングや調査等に時間をかけて真摯に取り組むことができました。協力していただいた青年部会メンバーの皆さま大変ありがとうございました。単純な集まりだけでなく何かのミッションを協力して進めていくことで、会員同士のコミュニケーションも活発になり、良いチームとなることができました。そういった中だからこそ、新たな活動のアイデアが出ることもありました。限られた人数で限られた時間で対応しているため、すべてを実施することはできませんが、今後につけていきたいと感じています。また、青年部会では発表の機会や他分野のことに触れる機会、人に出会う機会がたくさんあると思っています。今後の課題としては、より多くの青年部会メンバーにその機会に触れてもらうことが大切だと思いますので、所属してもらっているメンバーをいかに巻き込んでいくか、来年度以降もできる限り尽力していきたいと思っています。

中小企業診断士になりたい人を支援する会

代表 土田克則

当会は、中小企業診断士を目指す人たちが合格できるように支援することを目的としています。

今年度は、コロナ騒ぎも終了しましたので、本来の目的である研究会後の懇親会を堂々と開催できました。以下、今年度の活動です。

○8月19日「2次試験問題の解き方を研究する会」

- ・診断士4名、なりたい人7名 計11名
- ・令和4年度の事例Ⅰ、Ⅳの過去問の研究

○9月16日「2次試験問題の解き方を研究する会」

- ・診断士5名、なりたい人7名 計12名
- ・令和4年度の事例Ⅱ、Ⅲの過去問の研究

例年通り、昨年度（令和4年度）の過去問に挑戦しました。実際にその年に合格した新メンバーも加わり、充実した会になりました。大変頼もしい一方で、そろそろ代表交代の時期かな？とも思っていますが、そこは、事業承継研究会ではないので、気にせず続けたいと思います。最近合格した方で代表をやりたい方がいたら、いつでも交代しますので、是非、ご連絡ください。

会を立ち上げてから、なかなか合格者が誕生しませんでした。ここ数年は、参加者や参加者OBが少しずつ合格し協会へも入会してきてくれています。

来年度も、協会主催の「診断士情報交換サロン」とも連携して、沢山の中小企業診断士を輩出したと思っています。

自分の勉強法を教えてあげてもいいという最近合格された方、是非、一緒に支援しませんか？

中小企業診断士を目指している方、是非、ご参加ください。また、周りにそのような方がいらっしゃいましたら、ご紹介下さい。

今後ともよろしく願いいたします。もちろん、本来の目的である懇親会だけでも十分です。



クリップボード

- ◆令和6年5月25日（土）
定時社員総会 新潟グランドホテル
- ◆令和6年8月24日（土）
第1回 理論政策更新研修
新潟グランドホテル
- ◆令和6年9月7日（土）
第2回 理論政策更新研修
アトリウム長岡
- ◆令和6年11月8日（金）
中小企業診断士の日のイベント
朱鷺メッセ

編集後記

広報委員会 樋口圭治

令和5年度も終わろうとしています。今回編集をして感じたのですが、年度末に向かう時期に、中小企業診断士協会は様々な活動を行って来ます。協会が活発に活動を行っているということが、とても喜ばしく感じます。

皆様にとって令和5年度はいかかなものだったのでしょうか。やはり、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたというのが一番大きな出来事だったのではないのでしょうか。

コロナ禍では、それまでの生活様式が一転しました。5類移行後、それがまたどのように変わっていくのか、とても気になっていました。

結果、コロナ禍前の行動に戻ったもの、コロナ禍中の行動を続けているもの、様々だったと思います。

このような状況から、人々の行動はますます多様化していくものと感じています。結果、未来を予測することも難しくなっていくと感じていますが、事業者に寄り添いながら支援をしていきたいと考えています。

最後に、今年度ここまで広報委員会の活動を支えてくださった皆様に、感謝の念をお伝えしたいと思います。ありがとうございました。